

令和3年度 過年度学部卒業生へのアンケート概要報告

【目的】

・本調査の目的は、本学の教育をより良いものとする目的で、令和元年度卒業生に対してアンケート調査を行った。

【方法】

1. 調査対象

・平成28年度に入学し、令和元年度に卒業した学部生。

2. 調査方法

・上記対象卒業生に郵送で依頼文書を送付し、QRコードによるアンケート調査を実施した。

539名に送付したところ、58名の回答を得ることができた。（回答率10.8%）

3. 調査期間

・令和3年9月1日から令和3年9月28日

【結果】

問1.性別

項目	男	女
回答数	34	24
割合	58.6%	41.4%

問2.卒業した学科

学科	対象者数	回答率
・体育学科	26	44.8%
・健康福祉学科	14	24.1%
・運動栄養学科	8	13.8%
・スポーツ情報マスタイ学科	7	12.1%
・現代武道学科	3	5.2%

問3.本学の教育内容はいかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	15	27	13	3	0	58
割合	25.9%	46.6%	22.4%	5.2%	0.0%	100%

分析結果：肯定的な回答が多く、昨年度と比較するとやや不満であると不満であるの合計が6.3%減少した。ただし、次年度以降の調査ではコロナ禍におけるオンライン授業の評価が反映されるため、今後の傾向を注視すべきである。

問4.本学の施設、設備は充実していましたか

項目	1.充実している	2.やや充実している	3.どちらともいえない	4.やや不足である	5.不足である	合計
回答数	29	20	5	4	0	58
割合	50.0%	34.5%	8.6%	6.9%	0.0%	100%

分析結果：充実しているとやや充実しているの合計が84.5%であり、昨年度と比較して肯定的な回答の割合が上昇した。

問5.本学の就職活動支援はいかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	14	18	19	3	4	58
割合	24.1%	31.0%	32.8%	5.2%	6.9%	100%

分析結果：問5の就職活動支援に関して、「満足している」と「やや満足している」をあわせた割合は令和2年度では53%、令和3年度では55%であり、「やや不満である」と「不満である」をあわせた割合は令和2年度では11%、令和3年度では12%であった。これらのことから、本学の就職活動支援は、例年概ね良好な評価を得ているものの、年度毎の改善は少なく、さらに満足度を高めるための取り組みが必要であるといえる。

問6.本学で学んだ知識や経験は現在の職場で活かされていますか

項目	1.活かされている	2.やや活かされている	3.どちらともいえない	4.あまり活かされていない	5.活かされていない	合計
回答数	23	14	11	6	4	58
割合	39.7%	24.1%	19.0%	10.3%	6.9%	100%

分析結果：問6の本学で学んだ知識が現在に活かされているか、の問いについては、「活かされている」と「やや活かされている」をあわせた割合は令和2年度では55%、令和3年度では64%であり、「あまり活かされていない」と「活かされていない」をあわせた割合は令和2年度では11%、令和3年度では17%であった。

問7.仙台大学を卒業していかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	27	23	7	1	0	58
割合	46.6%	39.7%	12.1%	1.7%	0.0%	100%

分析結果：8割以上（86.3%）の卒業生が「満足している」「やや満足している」と回答しており、多くの卒業生から高い評価をいただいている。ただし、昨年度の回答と比べると6.8ポイント下落している。昨年度と比べると「どちらともいえない」という回答が6.4ポイント上昇しているため、評価を保留した卒業生が増えていると理解できる。卒業の満足度は卒業生自身の在学中の経験だけでなく、現在の大学の位置やあり方にも規定されるはずであるから、この結果を真摯に受け止める必要がある。

問8.本学は、体育・スポーツ及び健康分野を通して、グローバル化の視点に立った教育に重点を置いています。また、教養を供え、人間性豊かな行動規範を培い、専門的知見・技術を身につけた人材を養成することを目的もしております。卒業時にその力が身についたと思いますか

項目	1.身についた	2.やや身についた	3.どちらともいえない	4.あまり身につかなかった	5.身につかなかった	合計
回答数	17	21	15	4	1	58
割合	29.3%	36.2%	25.9%	6.9%	1.7%	100%

分析結果：6割以上（65.5%）の卒業生が「身についた」「やや身についた」と回答しており、過半数以上の卒業生から高い評価をいただいていると解釈できる。ただし、昨年度の回答と比べると18.4ポイントの大幅に下落している。「どちらともいえない」「あまり身につかなかった」の回答がいずれも昨年度と比べて上昇しており、コロナ禍以前の卒業生が対象であることに鑑みて、原因を精査する必要がある。

本調査の分析

全設問を通して概ね肯定的な回答が多かったが、今後の改善を図る上では否定的な回答に注目することが重要である。例えば、問6の「本学で学んだ知識や経験は現在の職場で活かされていますか」の否定的な回答が前年比6%増であることから、本学の教育内容と卒業生の就職実績との不整合が生じている可能性があると考えられる。この傾向が継続的にみられるようであれば、今後のカリキュラム改定等を検討する際に整合を図る必要がある。他方で、単年度の調査結果のみに基づく方針転換が相次ぐと無用な混乱を招くおそれもあることに留意し、数年間の推移を観察しながら改善を図ることが望ましい。